

項目		説明
試料・情報の利 用目的 及び 利用方法	研究課題名	食道癌に対する食道切除後の筋肉量減少が予後に与える影響
	研究目的	近年、術前のサルコペニアが食道癌術後の予後に影響するという報告が散見される。しかし術後の筋肉量の減少が予後に与える影響に関する報告は少ない。術前と比較し術後には治療介入による改善の余地が多いため、術後の筋肉量減少が予後に与える影響を明らかにすることは重要である。今回我々は食道癌に対する食道切除術から退院までの筋肉量の減少が予後に与える影響を後方視的に検討する。
	研究対象者	2011年9月から2015年7月まで食道癌に対し、右開胸食道切除術を施行し治癒切除がなされた症例のうち、特殊組織型、在院死亡、T4またはStage (TNM-UICC第7版)を除いた159例を対象とする。筋肉量は術直前および退院時に測定し、筋肉量減少率を算出する。中央値をカットオフ値として低減少群と高減少群と定義し患者背景、筋肉量減少と長期予後について検討する。
	研究期間	西暦 2020 年 1 月 16 日 ~ 西暦 2020 年 1 月 30 日
利用する試料・情報の項目 (チェック[X]が入った項目を利用します)		<input type="checkbox"/> 血液 <input type="checkbox"/> だ液 <input checked="" type="checkbox"/> 臨床検査データ <input type="checkbox"/> 病理組織 <input type="checkbox"/> 排泄物(尿・便) <input type="checkbox"/> その他(記載して下さい) <input type="checkbox"/> 毛髪 <input checked="" type="checkbox"/> 診療記録
試料・情報の 管理について の責任者	当センター 研究責任者	大島貴
試料・ 情報を 利用す る者の 範囲	当センターでの実施診 療科/部局等	消化器外科 胃食道
	共同研究の場合、共同 研究機関および各施設 での研究責任者	なし